



交通の足として活躍する
高速バス（写真左）や路
線バス（写真右）



地域に貢献する
交通機関でありたい

長電バス株式会社
飯山営業所
原沢 一美 所長

interview

長電バスは、「安全・安心・信頼の輸送に優しさを添えて」をキャッチフレーズに、地域密着の交通機関として運行しています。

北陸新幹線飯山駅が開業することによって多くの観光客が来るようになりますので、魅力的な中野市に立ち寄っていただけるよう、飯山駅から中野市をつなぐ2次交通として地域に貢献していきたいです。

今後も貸切バスや高速バスなど、さまざまな方法で交通の足として皆さんに貢献できるよう努めてまいりますので、ぜひ移動の際にはご利用いただければと思います。



人の温もりを感じる
地域密着の路線バス

長電バス

長電バスの歴史

長電バスは、昭和2年に長野温泉自動車(株)として設立し、その後長野電鉄(株)と合併しました。平成7年に長野電鉄から分離し長電バスが誕生し、平成18年には、先に長野電鉄から分離した信州バス(株)などの自動車部門と合併し現在の長電バスとなりました。市内では8路線が運行しており、暮らしに寄り添った地域の足として利用されています。

時刻表が変更となります

北陸新幹線飯山駅の開業に伴い、3月14日(土)から中野木島線の時刻表が変更となりますのでご注意ください。

大切な公共交通を残していくために 私たちができること

もしも鉄道や路線バスがなくなってしまうと、どうなってしまうのか、それが困るのか。

私たちの生活になくならない公共交通を残していくために、「どうしたら公共交通の利用者が増えるか」をテーマに、中野西高等学校で「公共交通を考える高校生ワークショップ」を開催しました。

乗らなければなくなってしまう公共交通。少子化や自動車の普及などにより公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあります。公共交通を残していくために、私たちができることは、どんなことがあるのでしょうか。



▲高校生ワークショップの様子



中野西高等学校
生徒会長

関 崇行さん

自分自身が利用することで 長く愛される公共交通に

バスや電車がなくなってしまうと、毎日の通学に利用している自分以外にも、さまざまな人が毎日の生活に困ると思います。後輩や将来の子どもたちにも残していくように、自分自身もしっかり利用し、長く愛される公共交通機関であり続けて欲しいです。



中野西高等学校
副生徒会長

奥田真夕さん

楽しみながら使うことで 公共交通を残していきたい

私は、市外へ出掛ける際に電車を利用していますが、その電車がなくなってしまうと、とても不便な生活を余儀なくされると思います。公共交通を利用すれば、普段とは違った景色を楽しむことができるので、楽しみながら使い、公共交通を残していきたいです。

キラリ★中野のチカラ

中野市若者ワークショップ



まちづくりを分かち合い
考える時代に向けて

市では現在、まちづくりの全体的なプランである「第2次中野市総合計画」の策定を進めています。

今回は、この計画の策定過程において、市の将来を担う若者たちから、まちづくりに対する提案を受け、昨年11月から5回にわたって実施してきた若者ワークショップの取り組みを紹介します。

○ワークショップってなに？

ワークショップとは、みんなで考え、実践する「体験型話し合いの場」です。会議と言えば、特定の人が話を進めていく受け身なイメージもありますが、ワークショップでは一人一人が自ら参加し、みんなで意見を出し合います。多様な考えや意見があることを認識したり、それらを整理する過程そのものが、体験として大切な機会となるものです。

中野市若者ワークショップは、40歳未満の市民（公募）と高校生、35歳以下の市職員、合わせて28人のメンバーが集まってもらい、全体を3つのグループに分



けて進めました。

○ふるさとを再認識し、将来像を考える

まずは統計データや市民アンケートをもとに、客観的に中野市の現在を見つめ直す作業を行いました。続いて、主観的に「中野市の良いところ・良くしたいところ」を拾い出していきました。

現状に関するワークショップを行った後は、「こんな中野市にしたい！」「ここを1つに！将来像の設定」というテーマで、将来の目標や希望について話し合っていました。

ワークショップを重ねたことで、理想と現実などいろいろな状況が交错している様子や、さまざまな視点でメンバーが考える将来像など、「中野市まちづくり」のコンセプトが少しずつ明らかになっていきました。

○中野市まちづくり未来戦略

現状や課題、目標など、これまで取り組んできた内容も踏まえつつ、その集大成として「何をするのか」「どうやって進めるのか」というテーマでプロジェクト提案をまとめ、2月10日に発表会を行いました。当日は、市長をはじめ、市内高校の校長先生にもご参加いただきました。各グループの提案内容の一例は次のとおりです。

【グループA】

- ◆後継者マッチング事業
- ◆産業振興のための規制緩和
- ◆移住のためのワンストップ窓口
- ◆交通弱者応援（病院便・スーパー便）

- ◆まちなかマルシェ（市場）
- ◆子育て用品購入補助金制度
- ◆くだもの狩り体験助成（お母さんと子ども）
- ◆小・中学校から中野市の良いところ探し

【グループB】

- ◆市民のキノコ割引制度
- ◆お土産を売る直売所などの近くに旬の農産物を使用した飲食店を
- ◆NKN（中野）アイドルの結成
- ◆若者が集う娯楽施設やカフェ

【グループC】

- ◆おれが私が一番！中野市大運動会「オタリンピック」に向けて、自己発見・オタ磨き・自信・充実感・ナルシスト（誇り）

市では、若者ワークショップの提案内容について、総合計画策定の参考としていく予定です。

なお、提案内容の詳細は、市公式ホームページ(<http://www.city.nakano.nagano.jp>)をご覧ください。